

Be-News

別府大学のアツい想いをスクープ



別府大学
別府大学短期大学部

NO.125
2022 AUTUMN

Beppu University, Beppu University Junior College Magazine



研究室訪問 学びのトビラ クローズアップ別大生 地域連携

Be-News

編集／別府大学・別府大学短期大学部 広報室 発行日／令和4年9月30日 印刷／株式会社 佐伯コミュニケーションズ
別府大学・別府大学短期大学部 〒874-8501 大分県別府市北石垣82 TEL.0977-66-6262 (広報室)
禁無断転載



LINE@



真理はわれらを自由にする

Be-Museum



アニメーション「ヘクソカズラ」

ジグ カメイ
竺 佳銘 (令和3年度 文学部国際言語・文化学科 卒業制作)

卒業制作提出直前に作画データ消去というアクシデントを乗り越え、仲間の応援を受けて卒業を前に完成させました。タイトルの「ヘクソカズラ」は植物の名前で、その花は小さく可憐な見た目に反して強烈なおおいを発します。人を見ただ目で判断してはいけないということをテーマにしています。



(写真右から) 原作・監督・作画／竺 佳銘 (国際言語・文化学科芸術表現コース 令和3年度卒業)、竜胆役・監修／甲元 隆則 准教授 (国際言語・文化学科)、アカネ・謎の少女役／伊藤 璃藍 (人間関係学科 令和3年度卒業)、早乙女役／植村 菜生 (国際言語・文化学科日本語日本文学コース 令和3年度卒業)



両大学の会場を結んだオンライン発表会では、お互いの学生が考えた観光のPVをプレゼンしました

その集大成として制作したのが、観光プロモーションビデオです。両大学をつないで7月21日に実施されたオンライン発表会では、学生自らがチーム別に力作をプレゼン。4チームに分



鉄輪のまちを舞台にした作品の制作現場



来別した松山短大生と交流

地獄めぐりなど、別府のまちをフィールドワーク



プレゼンを終えて松山短期大学の学生と記念撮影



道

後温泉で知られる愛媛県松山市と別府市は、古くから深いつながりがあります。その縁があって、別府市は伊予銀行（本店・松山市）と観光振興連携協力の協定を締結

し、お互いの観光を軸とした地域活性化に取り組んでいます。その一環として、別府大学と松山短期大学では、学生同士の交流を通じて、若者目線による観光振興策の提案を実践しはじめま

松山短期大学とお互いの観光資源を紹介

した。「温泉学概論」や「地域デザイン論」など講義による交流のほか、今年1月に18号館2階ギャラリーで開催した「別府・松山交流展」も、取り組みの一つです。

かして制作した別大生の作品は、温泉たまごの食べ比べや、ミステリアスな切り口の路地裏探索など、趣向を凝らした映像が目を引き

今年度は「地域デザイン論」の講義を皮切りに、別府市観光課と別府市観光協会職員によるレクチャー、別府市内リサーチなどを実施しました。お互いの学生が新就航の宇和島運輸フェリー「れいめい丸」を利用して海を渡り、それぞれの会場で観光PRを行うなど交流しました。

学生らしいフレッシュな視点に感銘

comment

別府市観光・産業部 観光課
観光政策係 主査

後藤 寛和 さん

次世代に向けた観光マーケティングとして、若年層の皆さんと共に別府と松山をつなぐ、新しい取り組みができなかったかと考えていました。自分たちの町を意識して見るようになり、さまざまな発見が知識のひとつとして埋め込まれたことは大きな意義があります。私たちの目線で気づきにくい視点も得られ、学ぶことも多かったです。



丁寧に磨き上げる別大生の重光宏哉さん（写真左）とビーコースの佐藤正敏さん



冬至には「ざぼん湯」を実施

しかし、利用客の減少や高齢化などで管理費不足に追い込まれ、閉鎖する温泉が現れはじめたのです。この問題解決に立ち上がったのがNPOビーコース（佐藤正敏代表）です。継続が困難になった温泉組合から委託され、現在は3ヶ所の管理と6ヶ所の清掃を引き受けています。

別府大学近くの前田温泉（上人本町）もその一つですが、「温泉学概論」の講義を聴いてこの問題を知った別大生が、清掃チームを結成しました。2020年から今日に至るまで、多くのメンバーが別府ならではの「コミュニティの存続に

一役買っています。「国東出身の僕は、これまで別府の温泉に浸かったことはなかったのですが、深刻な現状を知って驚きました。毎回約1時間かけて、湯船まわりの清掃、スノコや床磨き、窓ふき等を行っています。僕自身は浜脇や若草町等の共同温泉の清掃も引き受けています。地域の人たちの感謝が励みになっています」と、重光宏哉さん（史学・文化財学科3年）

この活動を次の世代にどうつないでいくのか。地域課題の解決に正面から向き合う別大生の取り組みに、注目が集まります。



11月26日の「いいふろの日」には前田温泉無料券を配布しました



地域住民とのふれあひも楽しみ



亀川湯人会から珪藻土マットをいただきました

別大生の頑張りに助けられています

comment

NPOビーコース代表

佐藤 正敏 さん

別府温泉を愛する「別府八湯温泉道名人会」から発展した「ビーコース」は、共同温泉を守る活動を展開しています。50年前までは約200ヶ所あった共同温泉も減少しつつあります。しかし維持管理に別大生が加わってくれたおかげで、大変助かっています。温泉文化存続に向けて、引き続き活躍に期待しています。



昭和の町に住む人たちのリアルな思いに、真剣に耳を傾ける別大生たち

学生たちと共にフィールドワークに取り組む福西大輔准教授



昭和世代には懐かしいグッズが満載の雑貨店で、レトロなスマートボールゲームに興じるメンバー

豊後高田・昭和の町を深掘り

「私が描く昭和のイメージは、時代の波が強まるなか、町全体が変貌を遂げた印象。コロナ禍の行動制限があるなか、地域の皆さんに失礼がないよう、貴重なお話を伺っています」と、宮田風花リーダー（史学・文化財学科3年）。メンバーは、冠婚葬祭の人生儀礼から、お祭り等の伝統行事まで、民俗文化のな切りを協力しています。

「私が描く昭和のイメージは、時代の波が強まるなか、町全体が変貌を遂げた印象。コロナ禍の行動制限があるなか、地域の皆さんに失礼がないよう、貴重なお話を伺っています」と、宮田風花リーダー（史学・文化財学科3年）。メンバーは、冠婚葬祭の人生儀礼から、お祭り等の伝統行事まで、民俗文化のな切りを協力しています。



若者が見た昭和の町はどんなものか

comment

豊後高田市商工観光課 観光振興推進室 吹上 幸司 室長

寂れていた商店街を復興させようと、2001年にオープンしたばかりの昭和の町の観光客は年間2万5千人でした。それがコロナ以前には約16倍の年間40万人を超えていました。昭和時代を知らない若い世代が増えていくなか、リブランディングも必要と考えており、別大生が見た昭和の町に対する視点は、大変参考になりそうです。

別大カで小学校を支援 市内小学校と連携し 相互に学び合うボランティア

文学部人間関係学科 長尾 秀吉 教授

小・中学校では、地域と連携した取り組みが行われる中、地域の大学生とのつながりに期待が高まっています。別府大学でも別府市内の小学校からの依頼を受け、今年度の1学期にプールの見守り、特別支援学級の学習支援の学生ボランティアを派遣しました。

ボランティアに参加したのは、「生涯学習論I」を受講している学生26名。授業担当の長尾秀吉教授は「学生には『子どもとの関わりを通じて色んなことを学んでほしい』、また学校の先生には『学生地域住民の教育力について学んでほしい』と伝えました」。学生は活動中に感じたことや児童の様子を日誌に記入し、先生に



comment

野津原方言調査会 小野 寿祐 さん

今年で発行から30年を迎える『野津原方言集』。時代とともに言葉は変わっていくものですが、野津原弁を話す子どもたちが居なくなったことに寂しさを感じていました。別大生が興味をもって研究に取り組んでくれることを嬉しく感じます。

方言に向き合う学生に感激しました

野津原の方言から 大分弁を考えてみる

九州の方言といえど「よかよか」「よかよか」といったイメージが全国に浸透していますが、大分県の方言は全く違います。どちらかというと、瀬戸内や関西の影響を受け、独特の立ち位置を感じます。

国際言語・文化学科では、大分市野津原の方言調査会の皆さんとの交流を通じて方言研究に取り組みんでいます。交流会では「見ちよちくん」「オロイー（よくない）」の意味や例を教えてもらったり、野津原弁による民話を共通語に訳したりして、楽しく方言と向き合っています。

方言研究が、未来に実ること祈ります。



方言研究を指導する文学部国際言語・文化学科の松田美香教授

交流会では県外出身の別大生も、リアルな野津原弁に興味津々



comment

MISOBA (佐伯市直川) 江藤 薫 さん

「ととのみそ」に私の麹を使っていたら、うれしく思います。麹は作る場所や人によって味が違います。大切なのは、いかに愛情を込めるか。別大生の皆さんと作る味が商品化され、たくさんのご家庭に届けられるよう、一緒に頑張りましょう！

発酵食品の凄さを一緒に広めたい

「ととのみそ」を開発 発酵調味料

味噌、醤油、塩、麹、焼酎と、発酵食品は大分の特徴的な食文化です。短期大学部食物栄養科が津久見市観光協会等と取り組む「ととのみそプロジェクト」は、まさに地域と密着した事業です。

「ととのみそ」の「と」とは魚のこと。「一般的に味噌は大豆を発酵させて作りますが、『ととのみそ』は水産物を原料にして、麹により発酵させます。

プロジェクトでは、岡本昭教授による指導の下、これまでマダライ、イカ等を使用した試作を行ってきました。開発にあたっては、



ととのみそプロジェクトに参加している食物栄養科の学生たちと岡本昭教授





別府大学 学長
友永 植

新学長 Interview

— 南国・九州生まれの学長
にとって、北海道での暮らしは

北の大地で過ごした12年
— 友永学長は別府生まれと聞きました。
友永 そうですね。私が高校生の頃は、流川通りが、不夜城と呼ばれるほど賑やかな時代でした。今は商業施設が建っている楠港桟橋で、観光客のお迎えで旗を持った旅館の番頭さんの姿が思い出されます。その後、福岡での大学時代を経て、大学院から12年間を北海道で過ごし、別府大学短期大学部着任のため別府へ戻ってきた時は、既に30代も半ばでした。すっかり様子が変わっている別府を見て、浦島太郎になった気分でしたよ(笑)。



学長室で別府大学への思いをフランクに語っていただきました

— 中国史を専攻するようになったきっかけは？
友永 やはり『三国志』に夢中になったことですね。日中国交回復前の中国はミステリアスな存在で、子どもの心を強く惹きつけるものがありました。私がいま専門としている唐から宋の時代も波瀾万丈のドラマが繰り返され、好奇

— 中国史を専攻するようになったきっかけは？
友永 やはり『三国志』に夢中になったことですね。日中国交回復前の中国はミステリアスな存在で、子どもの心を強く惹きつけるものがありました。私がいま専門としている唐から宋の時代も波瀾万丈のドラマが繰り返され、好奇

心をかきたてられる時代です。最近ではゲームや映画の世界でも中国史は人気を呼んでいますね。

建学の精神を再確認

— 生まれ故郷にある別府大学に着任するまでは、どんな印象を持ちましたか。
友永 型にとらわれない自由な校風の大学だと思っていました。さらに私が専攻する史学に限ってみると、九州管内で専門学科を持った私立大学は少なく、个性的な特徴を持っていると感じていました。

— では、現在の別府大学に関してはいかがでしょう。
友永 学生の72% (大短あわせて) が大分県出身と、地方の小規模大学ではありますが、やはりキラリと光る何かを持った大学だと思っています。国際言語・文化学科は国語・英語の教員、史学・文化財学科は文化財専門職員、人間関係学科は福祉・心理の専門家

— まさに「真理はわれらを自由にする」に通じますね。
友永 まだ学長に就任して半年ですが、建学の精神に裏打ちされた、たくましい学生を育てていく環境づくりをしています。



Break Time

魚釣りや野菜づくりを趣味にしている友永学長ですが、最近では手先の器用さを活かして、DIYやハンドメイド小物づくりも手がけているそうです。写真のランチバッグも学長の手作り。お洒落なデザインが、まさにキラリと光っていますね。



キラリと光る個性を持った学園に



パトロール後、気づいたことを共有

今年で13年目を迎えるこの活動は、普段歩いているだけでは気づきにくい危険をパトロールによって発見し、事件や事故を未然に防ぐとともに、学生や地域の防犯意識の向上にも一翼を担っています。
また、パトロール中に地域の方から挨拶や温かい言葉をいただくこともあり、この活動を通じて学生と地域の交流も生まれています。



小学生の通学路では、危険な場所がないか点検

パトロールで
安全なまちづくり

ボランティアも

別大力におまかせ♪

別府大学の周辺は住宅地で、近くには小学校や幼稚園もあり、さまざまな世帯が暮らしています。学生たちも地域の一員となり、近隣地域でボランティア活動を行っています。「近所の若者」として頼られる存在でありたいと考えています。

別府BBS会

子どもたちの
健やかな成長を願って



定期的なミーティングを開催し、活動について話し合いを行っています



BBSメンバーと顧問の織原保尚准教授

「別府BBS会」は、人間関係学科の学生たちを中心としたボランティアグループです。BBSとは「Brothers and Sisters Movement」の略で、その名の通りお兄さんお姉さんとしてさまざまな問題を抱える子どもたちと同じ目線で接しながら、成長のお手伝いをしていく全国規模の社会福祉ボランティア団体です。その中でも別府BBS会は学生だけで構成されている県内唯一のグループです。

別府BBS会は平成14年3月18日に発足してから今年で20周年を迎えました。児童福祉施設や公民館でのレクリエーション活動や不登校の児童・生徒への学習指導、交通安全の啓蒙活動など地域の子どもの身近なお兄さん、お姉さんとして活動が続いています。

平成23年には10年来の活動が認められ法務大臣と厚生労働省医薬食品局長から、平成28年には厚生労働大臣から感謝状を贈られるなど、多くの団体から表彰状を送られています。

02

食物栄養
学科

先輩・卒業生の体験談を通して自分のキャリア/これからを考える

1年生と2年生の交流会の実施

食物栄養学科では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、友人はもとより先輩などとの交流の機会を失った学生から、学生生活や期末試験への不安、将来をどのように考えたらいかななどの不安の声が聞かれました。このため、1年生を対象に2年生との交流会を実施しました。1グループ8名程度で2名の2年生が担当して、予習復習の必要性、定期試験への対策、アルバイトとの両立方法などの質問に丁寧に実体験を交えて答えました。1年生からは、「定期試験には準備が大切とわ

かった」、「不安なことを先輩に聞けて良かった」などの感想がみられ充実した時間となりました。また、将来に対するイメージを持たない学生がいることから、食物栄養学科全学生を対象としたキャリア支援講座として、夢に向かって挑戦し続けている先輩との座談会「ようこそ先輩・卒業生と語ろう」を開催します。令和4年10月5日を初回として、全5回を企画しています。様々な分野で活躍している卒業生との交流によって、自分の将来について考える良い機会になればと思います。



2年生の話を熱心に聴く1年生(2018年撮影)



「ようこそ先輩・卒業生と語ろう」のイメージ

公認心理師養成クラスの学生による1年生へのプレゼンテーション

心理教育プレゼンテーションを実施



グループごとに発表



「先生図鑑」など学生ならではのテーマで発表



1年生は先輩のプレゼンを熱心に聞いていました

03

人間関係
学科

公認心理師養成クラス(30名)では、毎年心理演習の授業の一環として1年生への心理教育プレゼンテーションを行っています。今年は7月27日(水)のお昼休みに、1号館21、22番教室にて行いました。

4つのグループごとに1年生に伝えたいテーマを決めて発表しました。「大学生時間攻略法」では身体やメンタルヘルスに配慮した時間の過ごし方の提案、「グループディスカッション攻略法!!」では大学に入って経験するグループワークでの発言の仕方や気持ちの持ち方について、「空きコマの過ごし方」では居場所として使える学内の場所の提

案を学生インタビューを交えながら行い、「先生図鑑」は教員に親しみをもてるようにと、人間関係学科の教員一人ひとりに取材をした教員紹介がありました。どれも1年生に少しでも役に立ち、楽しい大学生活が送れるようにとの思いが込められた発表で、1年生も真剣に聞き入っていました。

心理演習は、心理学に関する知識や基本的な技能の習得を目的にしたアクティブラーニングです。グループでの作業を通じて、自分自身や他者への理解をさらに深め、チームアプローチや多職種連携に結びつく気づきを得たようでした。

ウメの実の活用の可能性を探る

別府公園内のウメの実活用プロジェクト



たわわに実ったウメの実を収穫



幼稚園児によるウメシロップづくり



学生によるウメのはちみつ漬けづくり



丹念に煮詰めたウメジャム

別府市が管理している別府公園と南立石公園内には約260本のウメが植えられています。これまでは観賞用として管理されてきましたが、樹勢が弱くなってきたものが散見されるようになったことより、令和4年度より別府市では現況調査を実施しています。その一環として開花後にできる「実」について、結実量の計測や活用方法を調査することで、ウメの新しい活用も模索しています。ウメの活用が安定的に生産可能であれば、新たなウメの植栽や必要な維持管理費に充てるなど、公園内のウメの更新や健全化に向けた計画も検討することができそうです。発酵食品学科では本年度よりこのプロジェクトに参加することになりました。

5月26日(木)に発酵食品学科1年生47名が別府公園のウメの実の採取を行いました。別府市役所の方からウメの説明があったあと、別府市役所の方と一緒に採取を行いました。1時間ぐらいの活動で約400kgのウメの実を採取することができました。また、5月31日(火)には同学科の学生11名が参加し、約300kgのウメの実を採取し、2日間の活動で約700kgのウメの実を採取することができ、別府公園のウメの結実量の計測を行うことができました。

さらに、別府公園のウメの認知度を高めるために、別府大学附属幼稚園の4歳児クラス38名を対象に、ウメの話とウメシロップ製造を行いました。子ども達は一生懸命ウメの実を拭いて容器に入れていました。最後においしくなるようにおまじないもししていました。

今後は冷凍保存しているウメの実を利用して、別府公園散策とウメ加工品製造を行う地域交流を計画しています。この交流会を通して、別府公園のウメの認知度の向上とウメの加工品の可能性について検討していきます。イベントなどは大学HPなどで告知していきますので、皆様の参加をお待ちしています。



07

短期大学部
初等教育科

子どもとともに育つ保育とは

令和4年度 初等教育科児童学会「宮里暁美氏講演会」

7月27日(水)初等教育科児童学会主催のもと、お茶の水女子大アカデミック・プロダクション寄付講座教授の宮里暁美先生を講師にお迎えし、講演会「子どもとともに育つ保育とは」を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、東京会場、別府大学メディアホール、3号館ホール、1号館46番教室をつなぎ、初等教育科の学生と教職員約500名がオンラインによる講演会に参加しました。

講演のなかでは、「幼児教育の役割、育成すべき資質・能力三つの柱」、保育者の在り方、保育者とともに歩む、子どもと紡ぐ保育



宮里先生にオンラインで質問



オンライン講演会メディアホール会場

の物語、子どもとともに育つということについて保育教育現場への夢と不安を持った学生に対し、子どもたちの姿を交えながらわかりやすく講演下さいました。学生からは「子どもの気持ちに共感でき、寄り添える保育者になりたい」「自分にしかできない保育があると話していただき、不安だった気持ちが期待へと変わりました」「子どもと共に生きる保育を大切にしていきたい」などたくさん感想が寄せられ、初等教育科の学生が、自身の未来像を意識する素晴らしい学びの場となりました。

日本料理のプロに学ぶ「初夏の日本料理」

令和4年度 食物栄養科 料理講習会



講師の天野耕作先生



丁寧な手順を教えてくださいました



初夏を味わう4品を作りました

一般の方へ向けた食物栄養科の料理講習会を、7月13日(水)に開催しました。「初夏の日本料理」と題し、別府市のホテル白菊内の日本料理店「日本料理 菊彩香(きくさいこう)」の天野耕作料理長を講師にお招きしました。「日本料理 菊彩香」はグルメガイド「ミシュラン」で二つ星を獲得されており、天野先生のファンの方も多く、コロナ禍ではありましたがすぐに定員を超える22名のお申し込みをいただき、本格的な日本料理作りに挑戦しました。

調理実習では、地元の旬の食材を使い「蛸と牛蒡の炊き込みご飯」、「海老と翡翠茄子の白掛け」、「鴨治部煮」、「温かい鰻落とし梅肉ソース」を作りました。はじめに天野先生から、だしの取り方や旬の食材の持ち味を生かす調理方法の説明をしながら調理のデモンストレーションがありました。受講者の皆さんから「天野料理長の手さばきを実際に目の前で見ることで感動した」、「本格的な日本料理の献立の組み合わせや盛り付けなど大変勉強になった」という感想が寄せられ大盛況に終わりました。調理の補助に入った1年生たちにとって受講者と共に真剣にプロの技を勉強する良い機会となりました。

08

短期大学部
食物栄養科

06

史学・文化財
学科

豊後高田市内の古墳研究調査プロジェクト

大原古墳第2次調査

豊後高田市は、多くの古墳があり、なかでも県内で最大級の円墳である入津原丸山古墳が存在するなど、ヤマト政権と国東半島北側の首長たちの関係を考える上で重要な地域です。史学・文化財学科では、豊後高田市の協力のもと、令和3年度に豊後高田市内の古墳の研究調査プロジェクトを立ち上げました。同年12月からプロジェクト初の調査として大原古墳の第1次調査を実施しました。家形埴輪をはじめ多くの埴輪が出土し、古墳が造られた時代が4世紀末から5世紀初頭であることがわかりました。ただ、古墳が築造された当時の形がまだ確定していないため、令和4年8月7、12日に第2次調査を実施しました。

これらの調査は、史学・文化財学科の授業である「埋蔵文化財実習Ⅰ・Ⅱ」も兼ねており、多くの実習生が参加しています。また、実習生のほかにも、大学院生や考古学研究室の学生、研究室生以外の学生も自主的に参加しています。さらにこれらの発掘調査には、文化財専門職員として就職している卒業生も休日を利用して手伝いに来てくれました。第2次調査では、豊後高田市と共同で、小学生向けの現地説明会や発掘調査体験も行いました。



発掘参加学生

04

国際経営
学科

「#みらっこ旅2」Instagramフォトコンテスト

大分みらい信用金庫との共同企画



「みらっこ」とキャンペーンをPR

国際経営学科では、7月15日(金)に本学キャンパス内において「フォトコンテストPRイベント」を実施しました。このコンテストは連携協定を締結している大分みらい信用金庫主催で、同金庫(主管：営業推進部)地域にぎわい振興グループ、地域創生企画部と本学科の学生が共同で企画をしました。協議事項は、コンテストの主旨、撮影場所、撮影対象などの内容やハッシュタグのワード、入賞品であり、学生によるプレゼンテーションを実施したうえで、コンテストの内容が決まりました。

概要としては、大分みらい信用金庫イメージキャラクター「みらっこ」を通して、オオイトジンとして自慢したい大分県内の「場所料理・人物」などを被写体にした写真に「#みらっこ旅2」「#フレフレハオオイトジン」のハッシュタグを付けて投稿するという内容です。このオオイトジンとは、大分県を愛する人、大分県を自慢できる人、大分県でおすすめることができる人、大分県を知っている人のことを指し、宇宙港が注目される中で、宇宙人の発言「フレフレハオオイトジン」を意識して学生が発案した造語です。

PRイベント当日は、大分みらい信用金庫の吉野可奈子さん、岩本昌恵さんと企画プロジェクト参加学生にてチラシとノベルティを配布しました。「みらっこ」の登場による盛り上がりや昼休みの時間帯ということもあり、30分ほどで400部を配布することができました。



チラシと携帯クリーナーを配布しました

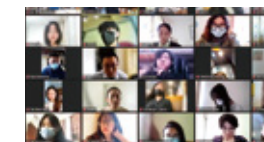
マンガは世界を繋ぐ

2022東アジア漫画
ストーリーテリングワークショップ

05

国際言語・文化
学科

5月17日(火)、国際言語文化学科芸術表現コースのマンガ領域の学生10名が「2022東アジア漫画ストーリーテリングワークショップ(WS)」にオンラインで参加しました。このWSは、マンガを学ぶ学生の物語制作への意欲を高めることを目的に、韓国・釜山国立大学主催で開催され、釜山大学芸術学部、中国・吉林アニメーション大学マンガ学部、そして本学科から、それぞれ10名の学生が参加しました。参加者はマンガに



韓国、中国の大学とオンラインでWS

対する情熱を語り合い、韓国や中国の学生たちの非常に興味深い視点や感覚は、本学科の学生の発想に大きな示唆を与えてくれました。このWSの成果は、2023年2月に本学で行われる発表会で披露される予定です。また、その後は2024年に釜山大学、25年には吉林大学と、成果発表を毎年行う予定です。東アジアを拠点に、異文化理解と友愛に根差したマンガ・メディア文化が大きく開花することを願っています。



ワークショップポスター

「人の夢を笑わないクラス」を作りたい! お笑い芸人を経て社会人学生になった 熱き男の新たな挑戦

福岡でお笑い芸人として活動していた福島慧さん。
現在は教員免許と幼稚園教諭の資格取得を目指しています。

決めた道を進むために、積極的に行動し
熱い夢と信念をもって前進を続ける福島さんが思い描く
理想の先生像や、行動力の源を探りました。

お笑い芸人から学生になる異色の経歴ですが 入学のきっかけなどを教えてください

小学生の頃から「お笑い芸人になる」と決めていました。神戸の大学の法学部に進み、大学卒業後、福岡の吉本興業に入りお笑い芸人になったんです。夢だったテレビやCMの出演、アイドルとの仕事など一通りを経験し、満足したので芸人を辞めました。その後、別府大学で司書講習を受け司書の資格を取得。次に子どものキャンプを開催する企業に勤務、1年半後にオーストラリアでワーキングホリデー生活を1年、帰国後は小中学校の司書になりました。そのとき、僕がすすめた本をとて気に入り、くれた生徒が「他にも教えて」と言ってくれて、嬉しかったんです。もっと子ども達と交流して、これまでの自分の経験を伝えたいと思い、教員を目指すことにしました。大分には馴染みがあつたし、教員免許と幼稚園教諭の免許も取れる短大という点が入学の決め手でした。

現在35歳、社会人を経ての学校生活はどうですか?

クラスの子たちとはだいぶ歳も離れていますが、同世代と話をしている感覚です。同じことを学んでいる仲間として、フラットな関係。敬語は使わないでとお願いしたら、今ではよくいじられるし、恋愛相談も受けるし、本当に友達になれた気がします。僕が以前大学生をしていた頃と違い、今はみんな目的があり、真面目に勉強している印象です。グループ学習など活動が活発で、模擬保育や模擬授業など、にぎやかで楽しいです。

今後の夢を教えてください

まず大分の小学校で実地経験を積み、将来は海外の日本人学校で働くのが夢です。海外の文化をもっと知りたいし、学校に来たら楽しいと思って欲しくて。40歳ごろには、海外進出したいですね。目標は「人の夢を笑わないクラス」を作ること。僕は昔から芸人になりたいと言い続け、ばかにされたり否定されたりしてきました。自分はメンタルが強いので受け流したけれど、そうできず諦める人もいますよね。可能性を狭めることをしたくないんですよ。大人が子どものやりたいことを肯定して、全力で応援する。それだけで前に進む力と勇気が出てくると思います。

学生のみなさんへ伝えたいことはありますか?

夢は何歳になっても持つておくべきです。やりたいことは、絶対やったほうがいいですよ。例えば先生になって、うまくいかず辞めたとしても、生きる道はひとつじゃありません。僕自身が色々経験してきたから、断言できます。仕事をやめても、なんでもできるんです。僕は気になることがあれば何でもまずはやってみます。成功しても失敗しても必ず経験値として自分に還元されるので、なんでも興味を持ってフットワーク軽ければ、選択肢が増えていくと思いますよ。

東京の化粧品メーカー勤務から 大学生へと大胆チェンジ! 家族に支えられ研究を続ける日々

3年前までは、社会人として東京で働いていた西川楓さん。
現在は2度目の大学生活を送っています。
大好きな家族のサポートを受けながら研究に没頭する日々。
節々に訪れる心境の変化で、前向きな選択を積み重ねてきた西川さんに
今までとこれからについて、語ってもらいました。

東京での社会人生活から一転、 本校に進学した理由とは?

高校を卒業後、宮崎の大学で英語を勉強していました。もともと私は消極的で、人と話すのが得意なタイプだったんです。ところがカナダへ短期留学に行き、多種多様な考え方や生き方の人に出会うことで、刺激とショックを受けました。「もっと自分の意見を持って前に出よう」と、積極的に行動するようになりました。卒業後は、東京で化粧品メーカーに就職。デパートで美容部員として4年勤めましたが体調を崩し、退職して大分の実家へ戻りました。そのとき、母親が栄養バランスを考え体により食事を作ってくれたことで、食の大切さを改めて実感したんです。「私も食で人を元気にしたい」と思うようになり、大分県で管理栄養士を目指せる学校を探し、別府大学に入学しました。

再び大学に進学することで、 周囲の反応はどうでしたか?

今の私があるのは、両親がサポートしてくれたおかげです。姉妹とも仲良し。進学も家族みんなが応援してくれました。友人からは進学に関して「いいね」と言われましたよ。「私ももう一回行きたい」「資格に挑戦しようかな」という人も多かったですね。

サプリメントの研究をしているそうですが 具体的には何をしていますのですか?

吉村良孝先生の研究室で、サプリメントを摂取している方の現状を分析して論文を書くため、今はアンケートの集計をしている最中です。栄養士協会の発表会が12月にあり、そこで発表するためにまとめています。以前から美容と食は深い関連があると感じていたし、「良いサプリはない?」と祖母から聞かれたこともあって、研究を始めました。興味のあることに携わり、知らないことがわかるようになる今の環境はとても楽しく、食欲に研究しています。将来は病院で管理栄養士として患者さんをサポートするか、美容の経験を生かした仕事にするか、どちらに進むか迷っていますね。

この記事を読んでいる在学生や高校生へ アドバイスをお願いします

もし進路に迷っていたら、自分の興味がある分野や、好きなことを追求できる学部を選んでください。私も最初は英語を勉強していましたが途中で変更しました。働くことができなくてつらい時期もあったけど、それはチャンスだったんですね。どんなことも経験として役に立ち、無駄なことはありません。やってみて違ったら変えればいいんです。あと、食事は3食、バランスよく。私も昔は炭水化物抜きダイエットなどしていましたが、何かを抜くのではなく、取り過ぎないことが大事です。

クローズアップ

Closeup!

別大生

キラリと輝く別大生を
紹介します。

短期大学部
初等教育科
2年

福島 慧さん

(福岡県立中間高等学校出身)



超高層ビル「Q1」からのゴールドコーストの景色



芸人のとき一番やっていたネタ



美容部員時代(写真左)



支えてくれた家族と



サークル

バレーボール部



大分県障がい者スポーツ協会から特別功労賞をいただきました！

バレーボール部部長
文学部
史学・文化財学科 3年
横尾 凌汰
(大分東明高等学校出身)



学生たちの声

バレーボール部は第2体育館で月・金曜日に活動しています。(長期休暇中は週3回) みなさん、これまで一度は体育などでバレーボールの経験があるのではないのでしょうか？経験者も初心者も楽しくできるのがバレーボールの良さだと思います。入部している部員の中にも、2年生から、学期の途中から入部した人も多いためぜひ一度見学に来てみてください！

「個人技でどうにかできる場面が少ないので仲間と協力して、ボールがどどんつながついていく瞬間が特に楽しいです。初心者も経験者も楽しく活動できる雰囲気づくりを大切にしたいです」とバレーボール部主将の横尾凌汰さんは笑顔で話してくれました。

バレーボール部は男女合わせて37名で活動しています。コロナウィルスの影響で数年間試合に出場できていませんでした。練習時間も限られる中、久しぶりに出場した5月の大会では女子チームが3位入賞するなどチームワークを発揮しました。

また2001年の第10回ふっせんバレーボール大会から21年継続して大会審判員と

してボランティア活動を行っています。今年度は大分県障がい者スポーツ協会から特別功労賞が贈られました。今回の受賞について横尾さんは「これまで続けてきてくださった先輩方の功績が認められての受賞だと思っています。自分たちも色々な人に支えていただきながら活動しているので、これからも活動を続けていきたいです」と話してくれました。

横尾さん自身、大学からバレーボールを始めたそうですが、経験者だけでなく下級生にも意見を聞きながら全員で活動をつくり上げています。皆さんもバレーボール部で新たな仲間とのつながりを見つけてみませんか？

サークル紹介

学部、学科を超えた絆は、人生の宝物

学生たちの声

演劇部は火・木曜日、3号館ホールで活動しています。部員のほとんどが演劇の経験がない初心者なので、これまで演劇をしたこと、見たことがない人も大歓迎です。また、役者だけでなく、脚本を書きたい、ものを作るのが好き、音響や照明をやりたいなど裏方をやりたいという方も大歓迎です。少しでも気になっている方は、ぜひインスタのフォローをお願いします！



演劇部部長
文学部
国際言語・文化学科 1年
益若 梨々花
(大分豊府高等学校出身)

全員で創り上げる最高の舞台

演劇部は2019年から部員不足により休部になっていました。しかし、今年度、新入生の益若梨々花さんが強い想いで活動を再開。9人の部員でリスタートしました。

「高校時代も演劇部に所属していましたが、新型コロナウイルスの影響で引退公演をすることができませんでした。その心残りから大学でも絶対に演劇をやりたいと思っていました」と活動再開に向けた想いを話してくれました。

演劇の魅力について益若さんは「役

者とスタッフが全員で舞台を創り上げていくことが最高に楽しいです。お客さんから沢山の拍手をもらった時はすごく感動します。演劇には、こうあるべきだ、これが正解といった固定概念が少なく、どんな人でも輝ける自己表現の方法だと思います」と笑顔で話してくれました。

来場者全員に楽しかったと思ってもらえる舞台を目指し、部員たちは日々練習に励んでいます。初公演の際には、ぜひ足をお運びください！

サークル

演劇部



文学部 人間関係学科 准教授
川崎 隆
Ryu Kawasaki

語られる言葉に寄り添い、相手の世界を知る

「臨床心理学」という学問

私は、臨床心理学という学問を専門としています。臨床心理学は、心理学の知見を用いて、困っている人や悩んでいる人の心を支える学問です。その方がちょっと立ち止まって、悩んでいること、これまでのこと、自分のことを考え直してみたいというときに、その方と向かい合っていて、あるいはそばに立ち、考える手伝いをします。臨床心理学にはそうした、誰かを実際に支える側面と(業界ではしばしば「臨床」と言っています)、そのための研究をする側面があります。ゆえに臨床心理学を学ぶ人は、私もですが、「臨床家」であり「研究者」でもあります。

「臨床心理学」の研究をする魅力

臨床をしていると、その過程で様々なデータが生まれてきます。例えば、「心理検査を通して得られるデータ」、「行動に関する記録」、「何曜日に何人相談に来たのか」、「何人はキャンセルしたのか」というのもデータになります。面談でどういうことが語られたのかというのもデータになります。

私の好きな分析の方法に「質的研究法」があります。質的研究法は、数字ではなく、言葉を分析する方法で

す。その方は体験をどのように語るのか、語り直すのか、そこからその方が世界をどのようにみているのかに迫っていきます。この方法は、数字よりももっと人に直接的に迫れるような気がして、そこが魅力だと感じています。

ピアサポートと後進育成

心理面接そのものに対してはいつも関心をもっていますが、いま研究の現象としては2つのことに関心をもっています。1つはピアサポート活動です。ピアサポート活動は学生同士が支え合う活動のことを指します。本学では2022年から始動しています(サポーター募集中！関心のある方は私まで連絡ください)。サポート活動によって支援される方のみならず、サポートをする学生にも変化がみられるときがあつて、非常に面白いです。

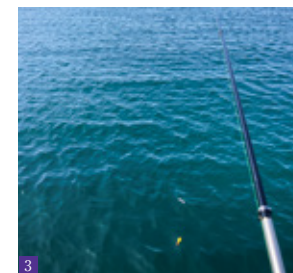
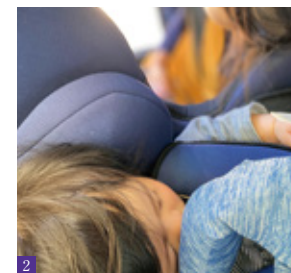
2つ目は、臨床心理学を専門とする支援者になりたいという、後進を育てる取り組みです。学部生、院生に臨床家の魅力や仕事を伝え、臨床家になるための一歩目二歩目を踏む手伝いをするわけですが、ここでも学生の変容、成長を感じることができ、また自身の臨床を振り返る機会にもなつて、ためになります。

このように、誰かを支える過程、支えようとする過程で本人が変容する現象に面白さを感じています。

～ Other sides of Ryu Kawasaki ～



1 大学院の修士1年生の歓迎会として、緒方町の原尻の滝へ行ってきました 2 子育て中。たまに構内にいるかも 3 学生に教えてもらって釣りをするようになりました



私も学生の皆さんに教えられたり支えられたりして変容を感じる場面が多々あります。これまでの私ならしないと思っていたことも、縁があればやってみようと思っています。そういう縁を学生の皆さんが与えてくれることがあり、本当に感謝しています。



大分市立滝尾小学校教諭
前田 千暁さん

短期大学部 初等教育科
平成30年度卒業



どんな質問にも答えられる
魔法使いのような恩師を見て
小学校教員を目指しました



指導方法が細部にわたり書き込まれたノートからは、前田先生から子どもたちに向けた愛情も感じます

子どもの頃から小学校教諭になる夢を持っていた前田千暁さん。
「小学生の時に教えていただいた先生は、どんな質問をしてもバツと答えてくれました。まるで魔法使いみたいにカッコいいと思ったことから、先生という職業に憧れはじめました」
高校卒業後、関西の大学で学ぶも、教員になる夢は叶わず一般会社に入社。約2年を営業職として働いた後、別府大学短期大学部で小学校教諭の免許が取得できることを知り、再チャレンジを決めました。
「27歳で入学したのですが、あらためて勉強してみると授業が面白かったですね。2年間で絶対に採用されるぞと、意欲的に取り組みました」と、前田さんは当時を振り返ります。
在学中は、結成まもないハンドベル研究会で副部長も務めました。
「ひとりで演奏するのではなく、全員の団結力の大切さを学びました。」

幼稚園での演奏会など、楽しい思い出ばかりです。
卒業後は臨時講師を経て、令和2年に念願の小学校教諭として大分市立滝尾小学校へ着任。
「最初は自己紹介もうまくできないほど緊張して、児童からの質問にも自信を持って答えられないこともありました。でも先ほどお話しした恩師の姿を思い出し、児童に真つすぐ向き合った授業を心がけています」
現在は、4年生のクラスを受け持ち、子どもたちとの日々を過ごしています。
授業に向けて作ったノートには、指導方法がびっしり書き込まれ、前田先生の誠実な横顔が垣間見えます。英語教育開始、タブレット導入といった新システム導入に加え、いじめ問題、コロナ対策など取り組むべきことは山積していますが、ポジティブに取り組む姿が伝わってきます。
最後に「別府大学で習ったことは実践に役立つことばかりと実感しています」と、教員を目指す先輩に、貴重なメッセージをいただきました。



幼稚園児の前に、息のあったハンドベル演奏をする前田副部長(写真中央)

大分市教育委員会文化財課 主査
串間 聖剛さん

別府大学 文学部 史学科 平成16年度卒業
別府大学 大学院 文学研究科 歴史学専攻 平成18年度修了



古文書を紐解いていくと
私たちの先祖の暮らしぶりが
生き生きと蘇ってきますよ

全国各地の自治体や史料館等で学芸員として活躍の場を広げている史学科の卒業生。大分市の文化財課に席を置く串間聖剛さんも、そのひとりです。
「自分は熊本生まれですが、宮崎県の父の実家にあった家系図を見たことから、古文書への興味が高まりました。そこから学芸員の資格取得を目指して別府大学へ進学しました」
串間さんの研究に大きな影響を与えたのが、熊本県天草市で開かれた古文書調査会に参加したこと。
「興味半分で行ってみたら、日本全国から研究者が集まっていて刺激を受けました。まだ、アーカイブズという言葉が一般的ではなかった当時、古文書の解読だけでなく、史料を未来に残すことに意義を見出す考え方に感銘し、これこそ自分がやりたいことだと、あらためて大学院で学び直そうと決意を固めました」以降、青春18きっぷ片手に、全国の古文書調査会にも自主参加した串間さん。とりわけハマツタのが、庶民の生活が書か



「古文書は方言と無縁で日本中どこでも通じ、江戸時代の共通語ともいえます」と串間さん。日本の高度な文字文化を再認識



今年の夏に出版された『豊後府内城』でも、串間さんの生き生きとした執筆文が読めます。

れた古文書です。
「江戸時代の日本には寺子屋があつたおかげで識字率が高く、私たちの先祖がどう生きていたかが古文書に遺されています。たとえば庄屋さんの日記など、生き生きと伝わってきますよ」
修了後は佐賀県立図書館で佐賀藩の古文書調査等に取り組んだ後、縁あって大分市教育委員会へ。現在は文化財課で府内藩に残されていた文献調査等に取り組んでおり、計画が進んでいる大分城址公園の整備にも貴重な役割を担っています。
「史学・文化財学科に限らず、別府大学は個性的なブランド力を育んでいる印象。ユニークな学生もいて、まだまだ面白くなりそうです」
先輩に期待する、串間さんの母校愛も伝わってきました。



府内藩の日記から当時の暮らしを学術的に紐解く『府内城文庫調査報告書』は、大分城址公園整備計画でも重要な位置づけ

学園からのお知らせ

明豊高等学校 剣道部大躍進！ 選抜大会・インターハイで好成績

明豊高等学校剣道部が、今年3月に春日井市で行われた「第31回全国高校選抜剣道大会」において、男子団体で県勢初となる日本一、女子団体が準優勝という成績を上げました。男子は創部6年目、女子は3年目での快挙となりました。



高校総合体育大会（四国インターハイ）では、女子剣道部が大躍進。個人戦では奥日菜乃主将が優勝、女子団体では準優勝という素晴らしい結果を残しました。

今後は目標に掲げている男女揃っての日本一を達成するため、日々の厳しい稽古に取り組み、更なる精進を重ねる決意をしているところです。

これまで剣道部に温かい声援を送り続けていただいた皆様方に衷心より感謝申し上げますとともに、今後も地域に根差し、地域に愛される明豊中学・高等学校となるように努めてまいりますので、宜しくご指導、ご支援をお願いいたします。



優勝した奥日菜乃さん(左)

大分香りの博物館 第11回香りの企画展 「東アジアからもたらされた香りの世界」を開催

2022年は大分県が日本の「東アジア文化都市」に選ばれ、中国の温州市、西南市、韓国の慶州市とともに日中韓3カ国の文化交流が行われています。

1500年前、中国、韓国の香りが日本に伝わりました。奈良、平安時代は寺院や貴族の間に広まり、その後、日本独自の香り文化として香道が生まれ発展しました。大分香りの博物館では、9月1日から12月28日まで企画展を開催します。



企画展「東アジアからもたらされた香りの世界」

会期 2022年9月1日(木)～12月28日(水)

会場:大分香りの博物館

観覧・聴講無料

(別途入館料が必要です。大人500円、
大学・高校生300円、中・小学生200円)

関連企画

10月16日(日)13:30～15:00

「東アジアにおける香の種類～『キングダム』の時代から現代まで～」
講師 香麗志安和漢香文化研究所主宰 千葉恭子氏(香実演あり)

11月26日(土)13:30～15:00

「百済金銅大香炉による東アジアの香り文化の考察」
講師 香りのデザイン研究所所長 吉武利文氏(香実演あり)

学校法人別府大学 令和3年度事業報告

I 事業の概要

令和3年度は、学校法人別府大学第2期中計画の5年目(最終年度)であり、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、計画の達成に向け、教育力の強化、地域連携の推進、組織ガバナンスの強化、経営基盤の強化等に積極的に取り組みました。

①教育力の強化

大学・短大で、オンライン授業のFD研修の開催や、GPS Academic(学生の問題解決力の修得状況を測る外部テスト)の導入などにより授業方法・内容の改善に取り組みました。

また、「数理データサイエンス・AI教育プログラム」が文部科学省の認定を受けました。

キャンパス環境の整備については、附属図書館2階・3階の改修工事、23号館の教室・実習室等の改修工事などを行うとともに、各学校の照明LED化を進めました。

②地域連携の推進

別府市との共同企画により、学生と企業との共同研究発表などを行うイベントを開催したを始め、同市の行うビジネスプランコンテストや、別府の魅力を再発見するタブロード紙の制作ワークショップへ学生が参加しました。

また、産学官が連携した「おおいた地域連携プラットフォーム」において、地域の課題解決事業として、大学・短大で4事業に取り組みました。

③組織ガバナンスの強化

法人全体では、理事会、評議員会のほか、定例役員会、所属長会議、事務会議等を定期的に開催し、情報の共有、バランスの取れた意思決定に努めました。また、予算執行や業務運営の適正性を高めるため、監事監査、会計監査人監査、内部監査を実施しました。大学・短大では、教授会等を計画どおりに開催するとともに、大学企画運営会議、短大企画運営会議を毎月開催し、迅速な意思決定に努めました。

④経営基盤の強化

収容定員充足率の高水準での確保や、第2期中期計画の主要数値目標の達成に取り組み、財政基盤の強化に努めました。(次の「II財務の概要」に詳細を記載)

II 財務の概要

「事業活動収支計算書」(左の表)は、企業会計における損益計算書に相当するもので、本法人における令和3年度のすべての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を示したものです。

令和3年度は、宇佐教育研究センターの取り壊し、大分キャンパスの土地の一部売却などにより、

事業活動収支計算書

(単位:百万円)

科目		予算	決算	差異	
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金(A)	3,097	3,094	△3
		手数料	42	45	3
		寄付金	42	44	2
		経常費等補助金	1,123	1,371	248
		付随事業収入	509	291	△218
	支出	雑収入	194	221	27
		教育活動収入の計(E)	5,007	5,066	59
		人件費(B)	2,713	2,718	5
		教育研究経費	1,630	1,568	△62
		管理経費	544	505	△39
教育活動支出の計	徴収不能額	5	4	△1	
	教育活動支出の計	4,892	4,795	△97	
	教育活動収支差額	115	271	156	
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	107	112	5
		その他の教育活動外収入	0	8	8
		教育活動外収入の計(F)	107	120	13
	支出	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出の計	0	0	0
教育活動外収支差額	107	120	13		
経常収支差額		222	391	169	
特別収支	収入	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	13	18	5
		特別収入の計	13	18	5
	支出	資産処分差額	409	414	5
		その他の特別支出	1	1	0
		特別支出の計	410	415	5
	特別収支差額	△397	△397	0	
予備費		10	0	△10	
基本金組入前当年度収支差額(C)		△185	△6	179	
基本金組入額合計		△941	△933	8	
当年度収支差額		△1,126	△939	187	
前年度繰越収支差額		234	234	0	
基本金取崩額		1,006	1,008	2	
翌年度繰越収支差額		114	303	189	

(参考)

事業活動収入計(D)	5,127	5,204	77
事業活動支出計	5,312	5,210	△102

(財務データ)

事業活動収支差額比率(C/D)	△0.1%
人件費比率(B/(E+F))	52.4%
人件費依存率(B/A)	87.8%

感染症の影響で留学生の入国が制限されたことから収益が上がり、学校会計繰入前利益は△1、676千円となり、学校法人会計への繰入ができず、最終的な当期純利益も△1、676千円となりました。

なお、当施設は本法人が取得し、令和4年度から直接運営するため、収益事業としては令和3年度で終了となりました。

※詳細は別府大学ホームページをご覧ください。

学校法人別府大学教育研究振興資金の募金について

令和3年度学校法人別府大学教育研究振興資金にご寄付いただきました方々に厚く御礼申し上げますとともに、感謝の意を込めて、ここに「芳名」を掲載させていただきます。なお、「芳名」の公表を希望されない方につきましては掲載しておりません。

【令和3年度】

(令和3年4月1日～令和4年3月31日まで)

個人	稲尾 一治 様
小野 幸子 様	昌明山 峰 教寺 様
佐藤 峰 朱 様	昌明山 峰 教寺 様
佐藤 峰 朱 様	昌明山 峰 教寺 様
佐藤 峰 朱 様	昌明山 峰 教寺 様
生野 博 士 様	関谷 忠 士 様
関谷 忠 士 様	関谷 忠 士 様
園田 博 士 様	福原 幸 治 様
福原 幸 治 様	柳川 幸 治 様
吉岡 幸 治 様	新廣実業 株式会社 様

(五十音順)※教職員を除く



国際経営学部が大分県農林水産部と連携協定締結

国際経営学部は大分県農林水産部と農林水産分野における人材育成活動の充実を目的とした連携協定を締結しました。7月22日に大分県庁で調印式が行われ、阿部博光国際経営学部長、佐藤章大分県農林水産部長が協定書に署名をしました。

本学では大分県と平成26年に連携協定を締結しています。大分県の基幹産業である農林水産分野における人材の育成を目的に、新たな協定を締結しました。大分県の基幹産業である農林水産分野における人材育成や地域資源を活用した学術研究などの連携を深めることで、大分県の持続可能な成長につながっていくことを期待しています。

国際ロータリー第2720地区のイベントに出演しました

本学吹奏楽団は、5月14日に大分市の大分いこいの道広場で行われた「国際ロータリー第2720地区2021-22年度地区大会」の野外ステージイベントに出演しました。当日は天候に恵まれ、たくさんのお客様が集まる中「マッケンサンバ」や「Mea!」などアップテンポな曲を演奏し会場を大いに盛り上げました。久しぶりのイベント出演となり、学生も演奏を楽しみました。



3年振りの「湯ぶっかけ」も実施！学生が「別府八湯温泉まつり」に参加

別府に春をよぶ「別府八湯温泉まつり」が4月29日から5月1日まで開催されました。ステージイベントで沖縄県人会がエイサーの演舞を行ったほか、3年振りとなった恒例の「湯ぶっかけまつり」では学生有志が神輿を担ぎました。コロナ禍で市内の祭りの中止が相次ぎ、学生の出演が少なくなっている中、この春は学生パワーで祭りを盛り上げることができました。



出版のお知らせ『聯合艦隊「海軍の象徴」の実像』

史学・文化財学科の木村聡講師が、中央公論新社より『聯合艦隊「海軍の象徴」の実像』を出版しました。木村講師は今年度本学に着任。日本近代における政治外交史や軍事史を専門に研究をしています。本書では、太平洋戦争において日本海軍の象徴である連合艦隊を戦史ではなく政治史に注目して描いた初の通史です。附属図書館にも架蔵されていますので、ぜひじっくりお読みください。



日本温泉地域学会が開催されました

6月5日(日)に日本温泉地域学会(会長 石川理)の「第36回研究大会」が本学にて、開催されました。研究発表大会では国際経営学部の「旅と地域の研究会」顧問の中山昭則教授とサークルの学生が「地域との対話そして地域からの発信」私たちの実践」として発表。また、本学の飯沼賢司特任教授が「別府温泉と別府「温泉」大学」をテーマに基調講演も行いました。



地域連携



18号館ギャラリー展示「うさ・くにさきのリビングヒストリーの世界」を開催しました

1300年以上に及ぶ悠久の歴史が刻み込まれているうさ・くにさきの世界。宇佐神宮とその関連の摂末社・寺院、六郷満山の寺院群の空間、行事が「うさ・くにさきのリビングヒストリーの世界」です。

2020年度に「宇佐・国東半島を巡る会」が中心となり、宇佐神宮・宇佐市・豊後高田市・国東市・宇佐市観光協会・別府大学などが連携し、文化庁の補助事業「リビングヒストリー」を申請し採択されました。この事業でうさ・くにさきの伝統的祭礼である放生会、修正鬼会をCG、映像再現などと組み合わせて、だれもが鑑賞できるようにするための映像や図録を作成することができました。

今回の別府大学での展示会は、「リビングヒストリー」の事業成果をどのように多くの方々に公開するかを考えるための試験的公開企画で、4本の映像を放映。また、併せて放生会や修正鬼会の写真を展示。開催初日には、本展示を担当した史学・文化財学科の飯沼賢司特任教授と修正鬼会の研究を行っている段上達雄特任教授、そして国東市の文殊仙寺住職で本学大学院生の秋吉文暢氏によるオープニングトークも実施しました。

本展示が、今後うさ・くにさき地域、大分県の観光の起爆剤となることを期待します。



短期大学部幼児・児童教育研究センター 子育て相談

別府大学短期大学部 幼児・児童教育研究センターでは、地域貢献事業として、別府市内に居住、または市内の幼稚園・保育所(園)・認定こども園・小学校に通う子どもの保護者を対象とした、子育て相談を実施しております。子育ての悩みやお子様について気になることなどございましたら、子どもの発達・心理の専門教員が対応いたしますので、お気軽にご相談ください。相談は無料です。

別府大学短期大学部 幼児・児童教育研究センター

子育て相談

子どもの発達や子育ての悩みについて相談をいたします。子育ての悩みやお子様について気になることなどございましたら、子どもの発達・心理の専門教員が対応いたしますので、お気軽にご相談ください。相談は無料です。

こんなお悩みありませんか？

- 子育ての悩みや疑問について相談したい。
- 子どもの発達や行動について知りたい。
- 子育ての悩みや疑問について相談したい。

対象：別府市内に居住、または、別府市内の幼稚園・保育所(園)・認定こども園・小学校に通う子どもの保護者

場所：別府大学短期大学部 幼児・児童教育研究センター (別府大学キャンパス内)

お問い合わせ先：別府大学短期大学部 初等教育科事務室 Tel.0977-66-4544

〈表紙から〉



見ちゃっくん

方言×マンガ

P6で紹介している、野津原方言プロジェクトの一環で、芸術表現コースのマンガ領域の学生が方言を使った4コマ漫画を作成しました。「見ちゃっくん」は「見てください」の意。マンガで表現すると、方言に親しみを感じますね。

「見ちゃっくん」

作／国際言語・文化学科芸術表現コース2年 手嶋茜さん

Be-Newsへのご意見ご要望がございましたら、下記までご連絡をお願いいたします。

別府大学・別府大学短期大学部 広報室 〒874-8501 大分県別府市北石垣82
TEL : 0977-66-6262 E-mail : koho@nm.beppu-u.ac.jp

Be-NewsはHPでもご覧いただけます。
<https://www.beppu-u.ac.jp/general/pr/>

編集後記

新学長の就任に伴い、地域とのつながりを大切にした学びの拠点作りがあらためて伝えられました。今回のBe-Newsでは、学生や教員が、コロナ禍の困難の中、枠組みを超え多様な地域との取り組みの一端をご紹介します。全学あげて全方向での活動の熱気を感じていただけましたら幸いです。

限られた紙面の中で、紹介できていない取り組みもあります。またご紹介したいと思えます。()